

マナマコ人工種苗の陸上育成技術確立試験

栽培水産試験場 生産技術部
稚内水産試験場 資源増殖部

研究成果の概要

マナマコ人工種苗を効率的に生産するための採苗技術や減耗抑制技術を開発しました。また、10mm未満の小型個体であっても放流区に残留できることを確認し、経済的な育成目標を立てる目途がつかしました。

背景

- 近年のマナマコの単価急騰により漁獲圧が高まり資源枯渇が懸念されています。このため、人工種苗放流による資源添加に対する期待がますます高まっています。
- 種苗放流により漁獲資源を増やそうとすれば、安く質の良い種苗をどういったサイズで放流すればよいかを明らかにしておかなければなりません。

研究目的

既存施設を利用したマナマコ種苗の安定的な量産化技術の開発とあわせて種苗放流による資源添加を効率的に行うために、育成目標サイズの設定とその目標サイズまで陸上施設で育成する技術の開発を目的としました。

研究成果

- 既存施設を有効に利用するために、狭い施設で高密度に採苗・育成する技術を開発しました。
- 採苗した種苗の効率的な減耗抑制技術と成長を早める餌料を開発しました。
- 体長10mm未満の個体でも、少なくとも3ヶ月間は放流区に残留することを確認しました。

波板上の種苗



100L水槽で9万個体育成可能
(採苗当初1か月)



従来手法

新手法

浮遊珪藻を給餌して2倍以上
に成長 (採苗当初1か月)



放流区に残留している種苗

研究成果の活用

この事業は平成20年まで継続します。終了時に「陸上育成技術マニュアル」を作成し、既存施設でマナマコ種苗を安定生産する技術を普及・指導します。